

# 画面と印刷物の色の違いについて

パソコン画面と印刷物の色はかなり違います。画面はRGB (赤・緑・青) といわれている色設定で表示されていますが、印刷機はプロセスカラーというCMYK (シアン (水色)・マゼンダ (濃ピンク)・イエロー (黄)・ブラック (黒)) の4色で表現しています。このため仕上がりが画面で見ていたイメージと変わることがあります。特にマイクロソフトOffice系ソフトはRGBで色設定がされていますので、鮮やかな色味がくすんだ感じに印刷されます。

## Illustrator・Photoshopデータ入稿の注意点 [必ず「ファイル」→「ドキュメントのカラーモード」→「CMYK」でご入稿ください]

Adobe IllustratorやPhotoshopでのデータ入稿の際、当社にないフォント (書体) を使用していると別のフォントに置き換わってしまったり文字化けを起こします。それによりレイアウトが崩れる可能性もあります。

### 上記トラブルを避ける為に

#### ▶ お客様がPDFに変換してご入稿ください (Illustratorのみ)

- 元ファイルを開き「別名保存」で「PDF」を選択し、デフォルトの「高品質印刷」で保存して頂ければ大丈夫です。  
※その際、「トンボと裁ち落とし」で「トンボ」にチェックを入れ、「種類」は「日本式」を「太さ」は「0.125pt」を選び、「裁ち落とし」を天地左右全て「3ミリ」にしてください。また、「詳細設定」の「フォントのサブセット」が100%になっている事をご確認ください。※PDFは入校前に要確認

#### ▶ 元データでの入稿の場合は文字をアウトライン化してください

- Illustratorで作成したレイアウトデータをご入稿の際は、全てのフォントをアウトライン化してください。  
※選択ツール (黒矢印・白矢印) で文字を選択し、「書式」→「アウトラインを作成」でアウトライン化できます。
- Photoshopで作成したレイアウトデータをご入稿の際は、「レイヤー」→「ラスタライズ」→「テキスト」を選んで、必ず文字レイヤーをラスタライズ (画像化) してください。
- Illustrator・Photoshop共にアウトライン化すると文字修正ができなくなります。アウトライン化前の大元のデータはお客様の方で保管ください。また、文字の修正は当店では受けかねます。入稿後に修正を行いたい場合はその旨をご連絡の上、修正済みのデータを再入稿してください。

#### ▶ 解像度は350dpiをお願いします

- Illustratorでレイアウトを作成する場合は、「効果」→「ドキュメントのラスタライズ効果設定」で「解像度」を「高解像度」にして作成してください。Photoshopでレイアウトを作成する場合は、新規作成画面でサイズは原寸、「解像度」を「350dpi」で作成してください。※3ミリの「塗り足し」も忘れずに
- Illustratorで画像を配置する場合、画像の解像度を350dpi、モードをCMYKに変換したEPS・JPG・PSDなど (モノクロやグレースケールはTIFFもOK) のファイルを配置してください。  
※画像解像度の調整 (Photoshopの場合) は、「イメージ」→「画像解像度」→「再サンプル」のチェックを外して「350pixel/inch」にしてください。配置した時のサイズ (拡大率に注意) でB2ポスターなどは250dpi程度、看板などの大判出力の場合は100dpi程度でも大丈夫です。  
※当店にて「画像の色調整」をご依頼の場合は、RGBモードのままの画像データをレイアウトデータと一緒にご入稿ください。【色調整・加工別料金】1点：税別¥500～ (作業内容により変わります)

#### ▶ オーバープリントに注意してください (Illustratorのみ)

- 入稿前に「表示」→「オーバープリントプレビュー」で、オーバープリントの確認をしてください。
- オーバープリントのチェックが入っていると、画像や文字が抜けたり背景に乗ってしまったりします。選択ツールで選択して、「ウィンドウ」→「属性」で「オーバープリント」のチェックを外してください。

# Office系データ入稿の注意点

[Windows Office2010(ワード・エクセル・パワーポイント)の場合]

文字化けや段組みのずれ、レイアウト崩れが起こる可能性があります。特に特殊なフォント(書体)を使用した場合、当社の基本フォントに置き換わってしまいます。また、貼り付けた画像が変形・移動する事もあります。

## 上記トラブルを避ける為に

### ▶ お客様がPDFに変換してご入稿ください

- PDFが正しく変換されているか、お客様が最終確認を行ってからご入稿ください。  
※ご入稿の際に出力見本をご用意いただけますと、更に作業がスムーズになります。
- 元データでご入稿の場合、必ず出力した見本をご用意の上ご依頼ください。文字化け等は見本を参考に修正致します(再入稿をお願いする場合があります)。作業環境(WinまたはMac)もお知らせください。  
【データ修正(塗り足し作業含む)別料金】A4(1ページ)：税別¥2,000～(作業内容により変わります)
- 最終確認なさらず出力見本もご用意されていないご依頼品に関しては、文字化けやレイアウト崩れ等が不具合が発生した場合でも当店では責任を負いかねます。

### ▶ PDFは「フォント埋め込み」で変換してください

1. 元ファイル(ワード・エクセル・パワーポイント)を開いてください。
2. 「ファイル」メニューの「保存と送信」で、「PDF/XPSドキュメントの作成」を選択して、作成ボタンをクリックしてください。(Macは別名保存やプリント出力画面でPDF変換できます)
3. 次に表示される画面で、「最適化」を「標準(オンライン発行および印刷)」にチェックを入れて、「オプション」をクリックしてください。(Macのパワーポイントは「オプション」の解像度を300dpiに設定してください)
4. オプション画面で、「PDFのオプション」の「ISO19005-1に準拠(PDF/A)」にチェックを入れてください。  
※変換したPDFで画像等に不具合が発生した場合は、「PDFのオプション」の「ISO19005-1に準拠(PDF/A)」のチェックを外し、「フォントの埋め込みが不可能な場合はテキストをビットマップに変換する」にチェックを入れてください。(ただし、この場合はフォントの埋め込みができない為、特殊フォントが文字化けします。文字化けする時は、元データのフォントを標準的なものに置き換えて再変換してください)
5. 「OK」でオプション画面を閉じ、「発行」をクリックすればPDFが作成されます。

※PDFは入稿前に要確認(Adobe ReaderでPDFを開き、「ファイル」→「プロパティ」→「フォント」タブを選択し、表示されたフォントに「埋め込みサブセット」とあればOKです)

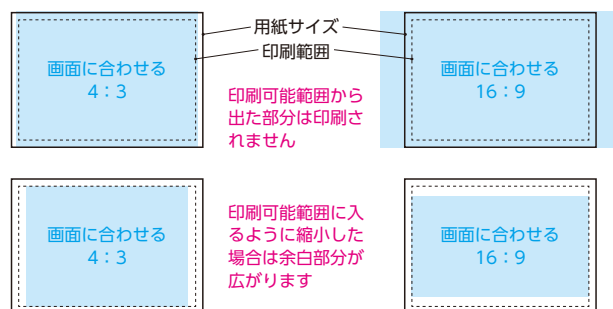
## その他の注意点

- オフィス系ソフトで作成したデータ(PDF含む)の「切り落とし(白フチなし印刷)」は基本的にはお受けしておりません。ドキュメントの端までレイアウトを作成してあるデータも、印刷時にまわりに3ミリ程の白フチができます(地色や背景含む)。レイアウトは5ミリより内側に配置してください。
- どうしても「切り落とし」をご希望の場合は、データを「拡大」して「塗り足し」部分を補うという対応を致しますので、文字や写真のレイアウトは更に内側(10～12ミリ位)にお願いします。

【データ拡大作業別料金】A4(1ページ)：税別¥500～(作業量により増額します)

【エクセル】ご希望の出力サイズでページ設定をしている場合でも、当店の設定環境により拡大／縮小のパーセントを調整する場合があります、余白の大きさが変更される事がありますのでご了承ください。

【パワーポイント】ページ設定を「画面に合わせる」で作成している場合、A4用紙とサイズ(縦横比率)が違う為、トリミングをご相談の上ご入稿ください。(天地左右に大幅な余白もしくはレイアウトが切り落とされます(右図参照))







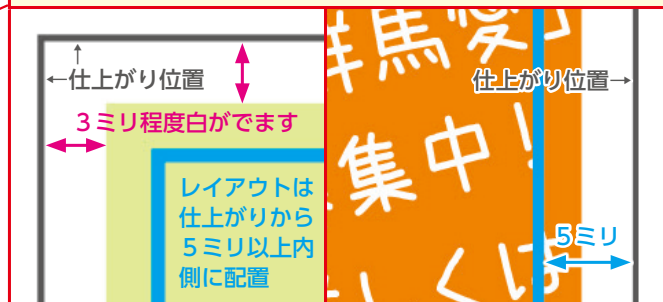
# 塗り足し・文字切れ

「塗り足し」とは、背景を仕上がりサイズよりも天地左右ともに各3ミリ大きく作成することです。「文字切れ」は、レイアウト端の文字や画像が断裁により落とされてしまったり、印刷範囲外の為に消えてしまうことです。※レイアウトの範囲の事を版面(はんづら)といいます。

## ◆A4レイアウトでA4仕上げ

A4レイアウト原寸をそのままA4用紙に印刷します。  
※印刷料金はA4です。

3ミリ程度の白フチが出ます。「文字切れ」を防ぐ為、文字や写真は仕上がりから5ミリ以上内側にレイアウトしてください。



## ◆裁ち落としレイアウトでA4仕上げ

ひとまわり大きい紙(A4の場合はB4)に印刷し、断裁してA4に仕上げます。

※印刷料金はB4になり、断裁料金が別途掛かります。  
※A4ぴったりに作られたレイアウトを「塗り足し」無く「裁ち落とし」で仕上げると、印刷・断裁時のズレにより余白が出る可能性があります。当店で元データの塗り足し修正を行う場合は別料金となります。



仕上がりより3ミリ大きく「塗り足し」してください。印刷や断裁時の誤差による「文字切れ」を防ぐ為、文字や画像(特に人物)は仕上がりから3~5ミリ以上内側(紙面サイズにより変わります)に配置してください。



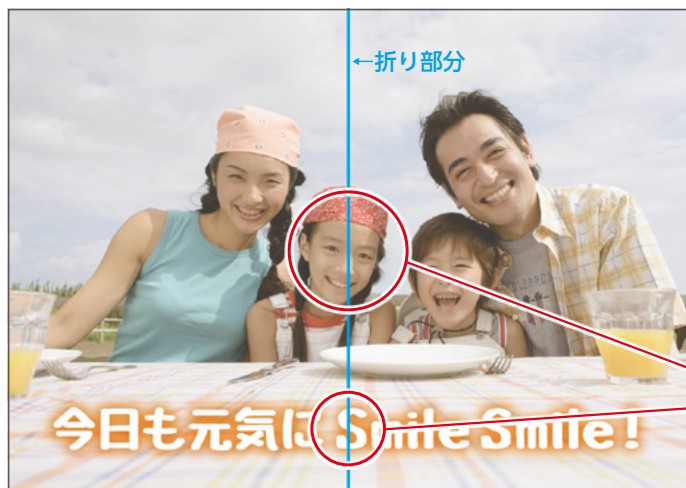
背景が白の場合、「塗り足し」は不要です。トンボ以外の目安線や断裁線は不要です。実線などで配置されている場合、そのまま印刷されてしまいます。



# 折り・スジ入れ・ミシン・ページの食われ

「折り」とは、2つ折り仕上げの印刷物の折られる部分です。「スジ入れ」とは、厚紙などの「折り」を行う部分に折りやすいように凹みを入れることです。「ミシン」は、チケット等に切り取りやすく加工を入れることです。「ページの食われ」は、平とじ製本等の際、とじ部分が製本される(とじられる)ことで見えなくなることです。

## ◆2つ折り(中とじ製本含む)



文字や画像を配置する場合は、「折り」部分にご注意ください。文字が読めなくなったり、人物写真の場合は顔に折り目が来てしまう等のトラブルがあります。印刷や断裁時の誤差も考慮に入れ、「折り」から1～2ミリ以上離してください。

## ◆スジ入れ・ミシン



文字や画像は加工位置から1～2ミリ以上離して配置してください。  
元データ(トンボ付)で入稿する場合は、加工位置のトンボも付けてください。



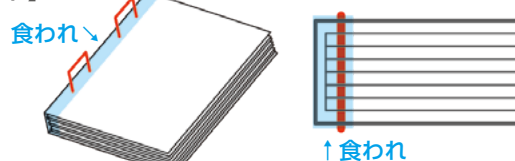
## ◆ページの食われ



↑ノド 本を開けた時の中央部分(背)

食われ

【平とじ製本】



見開き文字は8～10ミリ程度



平とじのページ物の場合、とじ代が必要です。「食われ」を考慮の上配置してください。ページ数や紙厚にもよりますが10～20ミリ程度ノドから離してください。小口側は5～10ミリ以上離してください。

※ページ印刷の場合も通常の印刷同様、「塗り足し」と「文字切れ」にはご注意ください。